

ナシ園におけるフタモンマダラメイガの発生消長および有効薬剤の探索

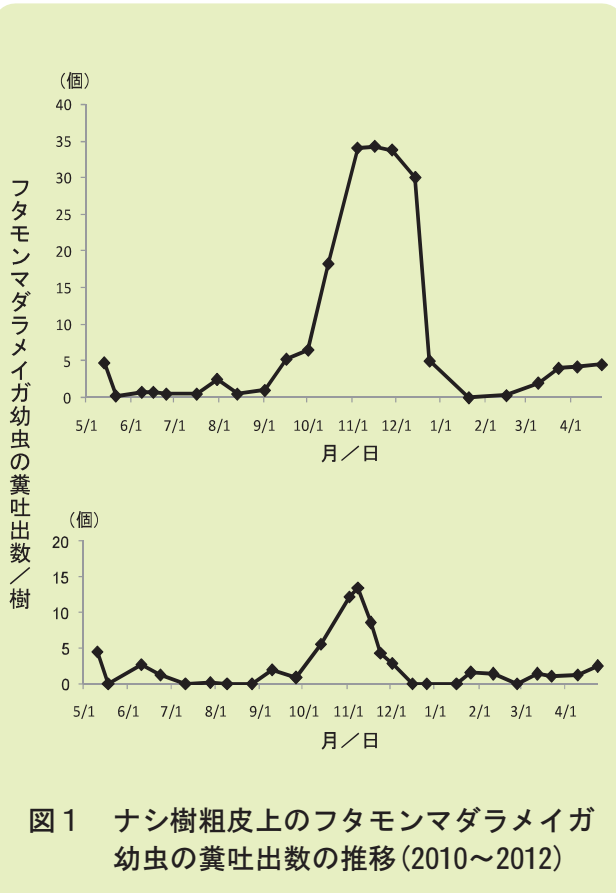


図1 ナシ樹粗皮上のフタモンマダラメイガ幼虫の糞吐出数の推移(2010～2012)



写真 粗皮上に吐出したフタモンマダラメイガ幼虫の糞

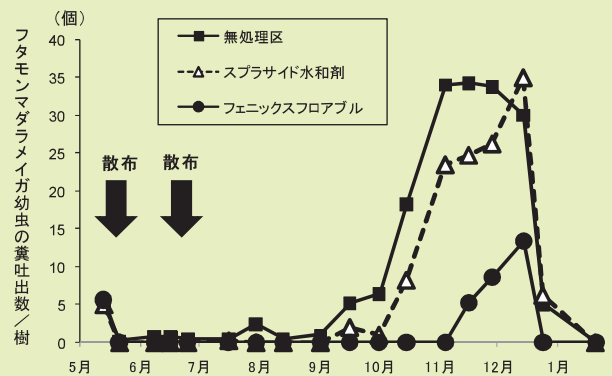


図2 各薬剤処理によるフタモンマダラメイガ幼虫の糞吐出数の推移(2010～2011)

フタモンマダラメイガによるナシ樹の被害は約10年前からみられ始めましたが、ナシ園での発生生態は不明な点が多く、防除に苦慮しています。

本種の幼虫は、粗皮の下を食害し粗皮上に糞を吐出します(写真)。そこで、この糞の吐出数の推移を調べ、発生時期を推定することにしました。調査は、果樹試験場の‘新高’を用いて2010年5月～2012年4月に行いました。その結果、吐出数の多い時期は、9月上旬～12月下旬、3月上旬～5月中旬、7月下旬(2010年) または6月上旬(2011年)の年3回ありました(図1)。特に9月上旬～12月下旬の吐出数は多く、この時期の発生を抑えることが防除対策上重

要と考えられました。

ナシではフタモンマダラメイガに適用登録のある薬剤はありません。そこで、ナシに作物登録のあるフェニックスフロアブル(4,000倍)およびスプラサイド水和剤(2,000倍)を5、6月中旬に散布し防除効果を検討しました。

その結果、フェニックスフロアブル処理では約5ヶ月間、スプラサイド水和剤処理では約3ヶ月間糞の吐出が抑制されました(図2)。特にフェニックスフロアブルは防除効果が高く有望と考えられました。

今後は、フタモンマダラメイガの発生消長を基にした防除体系を検討する予定です。

(昆虫担当 伊藤政雄 088-863-4915)